外国人日本語学習者による副用語の誤用
－誤用例の分類の試み－

小　林　典　子

1．はじめに

外国人留学生が間違え易い語句や文法は，これまで，日本語教育の現場の教師の経験にまかされてきたように思われる。文部省科学研究費による研究，「外国人による誤用例の収集，整理，及び分析」（研究分担者　寺村秀夫）グループ（注1）では，留学生の作文の誤用の実態をパソコンを利用して収集し，分析する試みを始めている。データ文はそれぞれ誤りの性質により分類ラベルを付けて入力し，必要な誤用例が検索できるようになっている。筆者は副詞の他に，副詞的用法の形容詞，ナー形容詞（形容動詞），名詞＋助詞，数量詞を「副用語」とラベル付けし，これらの誤用を収集した。本稿ではこの副用語のラベルのもとに検索された誤用例を分類し，その実態を報告する。

2．誤用データ文の入力の概要

データ文の提供協力者：筑波大学留学生教育センター
東京国際大学　留学生別科
国際学友会日本語学校
香港大学言語センター

もとにしたデータ：自由作文，読解や聴解の要約，絵を見ての作文など

入力データ文総数：4,601文

副用語の誤用例文収集総数：242

国別内訳：中国語系162　（台湾20，中国52，香港49，マカオ1，中国語系不明42）
韓国29
マレーシア23
上記以外19（アメリカ6，スペイン4，イラン2，エジプト1，ナイジェリア1，インドネシア1，フランス1，非中国語系不明3）

以上がデータの概要である。コンピュータで引き出した副用語の誤用の総数は343であった。しかし，この343の誤用データ文を一文ずつ読み直し，誤用データ文242 を収集した。誤用文の数が減った理由は(1)数人が共同してラベル付けをしているために，副用語の認定の仕方にばらつきがあったもの，(2)同一人の同じ間違いを拾っても意味がないと考えて捨てたもの，(3)どうしても誤用とは判定できないものなどが含まれていたことによる。(1)について言えば，連用修飾節（例えば，「＊表を見てわかるから〈表を見るとわかるように〉，」のようなもの）はここでは副

用語としないため，取り上げなかった。なお，本稿では副用語の誤りの部分を　　で示し，正用例の考えられるものは〈　〉内に示す。〈＋に〉，〈－に〉などとあるのはそれぞれ，「に」を付け加える，「に」を除く，という意味で，また〈に→で〉のように矢印で示してあるのは「に」を「で」に変えるという意味である。また，〈0〉はその副用語を除くという意味である。述語用言との共起が問題になっている場合には誤りの所在を〈動詞・ムード〉のように示す。副用語以外の誤りは特には明示せずそのままにしてある。(3)の誤用の判定の問題は一つには，日本人の側の個人差，地域差によると思われるが，もう一つには，一文では，正用と見えてしまう誤用が隠れている場合が考えられる。筆者はデータを検索するとき，前文一文を一緒に引き出して検討してみたのだが，これだけでは不十分であったと考えられる。もしかしたら，前文を2～3文あるいはパラグラフ単位でみないと，誤用が判定できない副用語を捨ててしまったのではないかと恐れている。このことは今後調べ直すこととし，とりあえず，本稿ではこの242の誤用例を分類した報告をする。なお，誤用例には学生の国名も示したが，なかで，（不中）とあるのは，中国語系で国名が不明なもの，（不）とあるのは非中国語系で不明なものである。

3．副用語誤用例の分類

3．0．分類の背景

例えば次のような場合を考えてみよう。

＊勉強したけれども試験が難しくて，もう一度〈また〉失敗したが仕方がない。

「また」というべきところを「もう一度」とした誤りは，意味内容で分類するなら，頻度の副詞の誤りとなろう。「もう一度」と「また」は，いずれも「再度同じことをする／した」という場合に使うが，それの修飾する述語表現が意志的か，非意志的か，後悔しているか，していないかというような心理的背景，つまり，発想に関する違いがある。そして，この誤用の要因は発想の不理解にあるといえよう。従って，分類を意味内容でとるのか，誤りの要因に基づくのか，によって，異なる分類の体系ができることになる。

ところが，筆者はこの両方を混ぜて分類した。日本語教育の実戦に対策をたてるためには，意味のまとまりで押さえておくことと，要因を押さえておくことの両方が必要であり，日本語教育現場に副用語の誤用の実態として示すには，この方が都合がいいのではないかと思ったからである。

そこで，以下のような七つの分類を作り，たとえ，誤用の性質が複数の分類にまたがっていたとしても，なるべくいずれか一つに属するようにした。(1)発音からの誤用，(2)漢字の意味に誘発された誤用，(3)数量，程度，比較の誤用，(4)時の誤用，(5)発想の不理解からくる誤用，(6)文法機能的誤用，(7)文型にからむ誤用。こうしてみると，(3)と(4)が意味内容からの分類で，その他は誤りの要因からの分類である。(3)と(4)を意味内容から特に取り上げる必要を感じたのは，これらの誤りが多かったことによる。他の副詞と比べると，飾り的な用途ではなく，どうしても発話する必要のある，必要度の高い副用語であり，初級の段階から使用する頻度の高いものといえよう。

従って，(3)と(4)に集めておくのが便利であると考えたのである。ちなみに先の例「もう一度」は(3)に分類した。

また，同じ副用語でも誤りの要因がひとつだけというわけではない。「多分」という副詞は漢字に誘発されて，「大部分」という意味に取り違えた誤用と見なせる場合と「おそらく」という意味はとらえているが，根底の発想までとらえていないために，被修飾語の動詞のムードとの共起性に問題のあるものと2種あった。前者は(3)で，後者は(5)で取り上げた。

このように，無理と乱暴を承知で，日本語教育を考える上で，参考になるよう便宜的に7分類を試みた。

3．1．発音からの誤用（24例）

発音が不正解なために正しく表記ができず間違っているものには次のようなものがあった。

（1）（不中）日本にはまた〈まだ〉遠い地方へ行きません…。

（2）（中国）また〈まだ〉じょうずじゃないです。

（3）（台湾）台南市はまった〈もっと／また〉有名なことは台湾料理が一番おいしいです。

（4）（韓国）ですからこのころ〈このごろ〉たいてい地下鉄をたいへん利用します。

（5）（イラン）やっぱり〈やはり／やっぱり〉…イランではもっと文盲がいる。

（6）（スペイン）お茶を入れた人はやぱり〈やはり／やっぱり〉わかい女の子。

（7）（中国）私はスポーツがたいへんすぎだから，たいへ〈たいへん〉ぬれしいです。

以上の他に17例，「ほとんぼ（香港）〈ほとんど〉」「ずうと（不中）〈ずっと〉」「もちろう（不中）〈もちろん〉」「ほんどに（マレーシア）〈ほんとうに〉」「次いて（香港）〈次いで〉」「いっしょれんめい（アメリカ）〈いっしょうけんめい〉」「ちょうと（韓国）〈ちょうど〉」「とての（中国）〈とても〉」「なかな（中国）〈なかなか〉」「たんたん（中国）〈だんだん〉」「どきとき（中国），ときとき（不中）〈ときどき〉」などが見られた。

「また〈まだ〉」については，これは発音の間違いとばかりは言い切れないのではないか，発想の違いかもしれないという指摘が三枝玲子氏から（口頭で）あった。(4)の「このころ〈このごろ〉」も単純に発音の問題とは決められない。

3．2．漢字の意味に誘発された誤用（18例）

これは副詞の表面的な意味とそれが話者のどのような心理のもとで使われるかという3．5．節の発想の不理解からくる誤用と共通になるものもある。例えば，次の「何気なく」の例をみてみよう。たまたま全員香港の学生であるが，別人である。

（8）（香港）きのう何気なく〈なんとなく〉この特効薬を飲んでしまってなどが大変いたくなった。

（9）（香港）今朝，学校へ帰るときに，何気なく〈偶然〉林さんに会った。

(10) (香港) いろいろなことを考えながら何気なくついに〈いつのまにか〉学校に着いている。

いずれも，「気」を意識，意図という意味で捉えた上で，「意識や意図がない状態で」と表現しているつもりであろう。確かにそのような意味ではあるが，日本人は上記のような使い方はしない。このような誤用は留学生の覚え間違いなどというものではなく，我々の意義記述の不足に原因がある。(11)～(13)もそうである。

(11) (香港) 一概には〈概して〉，学生たちは試験がきらがる。

(12) (不中) 彼女の明朗な態度と豊かの教養と勤勉な学習態度，今でも深刻に〈深く〉私の心の底に残こている。

(13) (アメリカ) 事実上〈実際〉，私は本当の弁護士になりたくない。

「概して」を「一概には」とした間違いは全部で4例あった。

ところが，次のように，漢字を利用して勝手に創作したための誤用もある。辞書による確認をさせねばならない。

(14) (台湾) 論文を専念に＜一生懸命＞書く途中にそんなような無理なことをたのんでご迷惑をかけてごめんなさい。

他には，「寝中に（不中）〈就寝中に〉」「快速に（不中）〈急速に〉」「高速的に（マカオ）〈急速に〉」「近況（不中）〈最近〉」などがみられた。

3．3．数量，程度，比較の誤用（64例）

量の多少，頻度の多少，比較の度合など，は日本語教育の初級段階から，教えられる副用語である。このことは，先にも述べたが必要度，使用頻度が高いということでもある。そして，誤用もまた，多い。

3．3．1．≪数量≫

数が名詞と副詞の両方の性質を持つことからの混乱による誤用が次の例である。

(15) (アメリカ) ですから，私のふるさとは二つが〈ーが〉あります。

(16) (香港) ひらがなとかたかなが似ているのはふたつも〈どちらも〉漢字からうまれたものだからだ。

(17) (不中) しかしほかのふたりひと〈ーひと〉はたいていうちにいません。

3．3．2．≪全部≫

物や人の「全部」を表現するときの誤りには次のようなものがあった。

まず，「全員」とすべきなのに「全部」とする誤りが目だった。

(18) (マレーシア) 私たち全部は〈私たちは全員〉，マレーシアの庶民で，なぜ民族を区

別しますか。

(19) (韓国) 家族はヤンさんがおふろに入って歌うことを聞って，全部〈全員〉笑った。

次の例は語順が問題になるものだ。数量表現の練習の時「全部」も一緒に練習させておく必要がある。

(20) (不中) 部屋は4畳半で台所とお手洗いとおふろ全部があります。

(21) (不) 全部食事の必需品がおいてあります。

「全部は分からない」といえば，「一部分だけなら分かる」という意味になるが，これを「全然分からない」という意味で使っている次のような誤りもあった。

(22) (中国) 私は日本へきた前ににほんごはぜんぶは〈全然〉わかりません。

(23) (中国) わたしは，ことしのじゅうがつにほんにほんごのべんきょうにつきました。そのまえにほんごがぜんぶ〈全然〉わかりません。

次の誤用は，同じ副詞的用法でも「みんな」と「みんなで」は異なること，全部という範囲や限度を示す時は「で」が必要となるという文法機能的誤用である。

(24) (中国) わたしたちのクラスにはみんな〈＋で〉18人がいっていい仲です。

3．3．3．≪量の多いこと≫

「たくさん」について，森田1977（注2）は「一つ，二つ，三つ，．．．と数えていって，その集合として数量が多いという気持ち。」と記述している。これを程度を示す表現に使った誤用が次の例である。

(25) (韓国) しかし韓国は開発途上国ですから，人達がたくさん〈とても〉忙しいです。

(26) (不中) …不満足なかんじもたくさん〈かなり〉減少しました。

(27) (韓国) 日本の物価と韓国物価とを比べると，日本の物価がたくさん〈もっと〉高いである。

「たくさん」と否定表現が結合した場合の誤用が(28)である。

(28) (中国) いま，わたしのにほんごはたくさん〈あまり〉しりませんから，ともたちはしんせつにおしえます。

○たくさん知っています。

○たくさんは知りませんが，少しなら知っています。

とは言えても

＊たくさん知りません。

は言えない。（注3）

(29)は量の表現を副詞的に表すべきところを，連体修飾した誤用である。他に，「多い山」「おおい時間」など見られた。「多い」が普通名詞を連体修飾しない特殊な形容詞であることをおさえておかなければならない。

(29)　(不中) 毎度，友達がいっぱいな〈ーな〉おもちゃをもっているとき，私は金持ちさんなって，もっと多い〈たくさん〉おもちゃを持っている夢をつくた。

動詞との共起性が問題になっているのが，(30)～(33)である。

(30)は「かなり」と「多く」の両方が「見えました」に係っているのか，「かなり」は「多く」に係ってこの程度を修飾しているのか，あるいは，「かなりのデパート」のつもりなのか定かではない。誤用文の本意を探るのは難しい。

(30)　(マレーシア) …日本旅客もかなりデパートで多く見えました。

(31)は間違いでも，

○かなり待ちました。

○かなり歩きました。

とは言える。動詞自体が期間を表現するものであれば，良いということになりそうだ。このような動詞との共起の問題は留学生にとって難しいのかもしれない。

(31)　(香港) つまり，明治維新以前かなり〈＋の間〉鎖国です。

(32)の「大変」も程度の副詞であるから，被修飾語は程度を表すものでなければならない。

○大変疲れた。

は良くても

＊大変利用する。

はおかしいと感じる。つまり，「疲れる」は「どのくらい」という程度副詞と直接結合できるのに対して「利用する」はそれができないということになる。副詞の問題は動詞の性質の問題でもあるのである。

(32)　(韓国) ですからこのころたいてい地下鉄をたいへん〈よく〉利用します。

また，(33)では「同じ」に度合が考えられないために，「大変」と程度副詞を使うのはおかしい。もし，「似ている」なら，程度表現と共起でき，「大変似ている。」と言える。

(33)　(韓国) 韓国の漢字は日本の漢字がいみがたいへん同じですが，読の方がちがいますからです。

(34)～(36)は「大体」「多分」を漢字から類推して「大部分」「かなり」の意味に誤解したものと考えられよう。

(34)　(中国) にほんごはちゅうごくごとだいたい〈かなり〉ちがいます。

(35)　(中国) 日本の漢字と中国の漢字は多分〈かなり〉意味がちがいます。

(36)　(中国) わたしはたぶん〈たいてい〉うちでふくしゅうをしたり，よしゅうをしたりします。(「たぶん」の同様の誤用は他に1例)

同類の誤用例は，次にあげるようなものである。「大分の時間 (不中) 〈たいてい〉」「大分 (不中) 〈大部分〉」「大大 (台湾) 〈大変〉」「十分に (台湾2例) 〈非常に〉〈多く〉) ほかに，「少なくなく (不中) 〈少なからず〉」のような誤用も目についた。

3．3．4．≪量の少ないこと≫

少ない量を表現する場合も，語順の問題（37）（注4）や（30）～（33）と同じ様な述語との共起の問題（38）が見られる。

（37）（香港）昔は....だったから，少し外国人がこの地方へ訪れた。

（38）（中国）私は，ちょっと〈しばらく〉結婚してから，日本へ来ました。

ほかには，「すこしもっと（台湾）〈もう少し〉」といった，誤用があった。

3．3．5．≪頻度≫

「よく」という副詞は頻度が多いという意味でも，評価が良いという意味でも使用度の高い副詞であり，またそれに比例して誤用例も多く，（39）～（41）などが見られた。

（39）（香港）一般的に言って，言葉はよく〈かなり〉やさしいです。

（40）（マレーシア）そうすれば貧民がよく〈いつでも〉医療にいくのができる。

（41）（イラン）…大部分の子供はよく〈あまり／良い〉教育がうけられない。

また，「うまく〈よく〉言われる。（香港）」などは，「よく」を知っていて類推した誤用なのだろう。「よく」に関する誤用は全部で6例あった。

次のような発想が問題になる例もあった。

（42）（香港）勉強したけれども試験が難しくて，もう一度〈また〉失敗したが仕方がない。

3．3．6．≪比較≫

「もっと」に関する次のような誤用例があった。

（43）（韓国）ラジオとテレビとくらべるとテレビのほうがもっと〈より／はるかに／0〉おもしろいです。

（44）（香港）前者の肉食率が後者よりももっと〈より／はるかに／0〉高い。

（45）（エジプト）毎朝ジギングします。25分だけど体の調子はもっと〈とても〉よくなります。

「もっとおもしろい」「もっと高い」「もっとよくなる」だけを見れば，少しもおかしくはない。しかし，文としてみるとどうも座りが悪い。「もっと」の意義記述を正確にしなければならない。(46)は二者の比較表現に「いちばん」という最上級の表現をつけた間違いである。

（46）（不中）人間はいちばんいるものは物質的なものより精神的なほうが大切と思います。

3．3．7．≪否定との呼応≫

「全然」「あまり」は否定と呼応することを初級で導入するが，やはり，次のような誤用例があった。

（47）（香港）そこで日本人は全然〈全く〉この読み方に依存する。

(48) (香港) 日本の自分の語言特色は全然〈全く〉消失する。

(49) (不中) かぜはあまりひどい病気ですが，不注意なら，肺病になりやすいです。

(50) (マレーシア) この動物を養う方法はあまりむずかしいと思う。

3．3．8．≪こそあどと不定詞≫

「どんな」「こんな」「そんな」＋「に」で表す程度表現で「に」を落とした誤用例は3例あった。

(51) (香港) 妻を失った後，彼女が私にとってどんな〈＋に〉大切だかをよくわかる。

(52) (アメリカ) 日本と南米を比較してみると，日本の方が国土が不足しているし住宅も狭いが，生活はそんな〈＋に〉きびしくないということがわかる。

(53) (54)は〈大変，とても〉と言うべきところを「そんなに」とした誤用である。

(53) (韓国) そして，コタツを置っている側の壁に窓があるから，昼間の時いつもそんなに〈大変〉明るいです。

(54) (不中) 私はとってそんなに〈大変〉つらい悲しみです。

不定詞では「どのくらい（韓国）〈いくらか，少し？〉」「いくら（マレーシア）〈どんなに〉」「なんかいに（不中）〈何回も〉」といった誤用があった。

3．4．時の誤用（46例）

3．4．1．≪――とき≫

「――とき」と表現すべき場合と，「とき」をつけてはいけない場合との区別ができていないための誤用が目立った。

(55) (韓国) そして，コタツを置っている側のかべに窓があるから，昼間の時〈―の時〉いつもそんなに明るいです。

(56) (不中) 西に窓がありますから，夏なら，午後とき〈―とき〉日が直射してもっと暑くなります。

(57) (台湾) そのとき〈その→そんな／そのような〉私たちはいつも整理，再整理しました。

他には，「夏の時（不中）〈の時→には〉」「冬の時には（不中）〈―の時〉」「休み時（不中）〈時→の時／には〉」「5歳時（不中）〈時→の時〉」「8月の終わり時（中国）〈時→に〉」「ひまは（不中）〈は→な時〉」などがあった。

3．4．2．≪――に≫

「――に」もまたつけるべき場合とつけてはいけない場合の間違いが多い。「とき」は語句によって「とき」が付くか付かないか単独におさえられるが，「に」は語句としては，存在するものが

多いだけに，文の中でその使い分けを考えねばならない。例えば，「半年の間」といえば，「その期間の初めから終わりまでずっと」ということになるが，「半年の間に」といえば，「その期間のどこかの時点に」ということになる。このようなことは授業でおさえてあるところではあるが，次のような誤用が見られた。

(58) （韓国）楊平は冬に〈－に〉寒いです。

(59) （台湾）一日中に〈－に〉いつも立って足が非常に疲れました。

(60) （マレーシア）その間に〈－に〉，毎日たまらないほどの暑さが続いていました。

(61) （台湾）夏休みの間に〈－に〉最初に二週間，私と洪さん一緒に川越，長崎屋の洋服部でアルバイトしました。

(62) （中国）この半年の間に〈－に〉日本で暮らして，いろいろなことを次第にわかって来ました。

(63) （中国）そして一生に〈－に〉忘れないほど深い印象が残されました。

その他，「に」のからむ誤用は「ちょうど（マレーシア）〈＋に〉」「ある日に（マレーシア）〈－に〉」「年々に（香港）〈－に〉」があった。

3．4．3．≪－－で≫

「で」についての誤用は次のようなもので，「で」が限度や範囲を表すことを理解していないためと考えられる。

(64) （香港）この地方は伝統芸術で有名で一日中〈＋では〉見切れないことがあります。

(65) （マレーシア）一日中〈＋で〉，約百人お客さんが来る，土曜日なら約二百人になる。

(66) （中国）いちねんのあどで〈で→に〉わたしの日本語はどうですか。

ほかに，「5年の後で（中国）〈で→に〉」「3カ月の後で（中国）〈で→には〉」などがあった。

3．4．4．≪今≫

「今」に関する表現に誤用が多いことは興味をひく。「今から」とすべきところを「今」としたものが(67)(68)である。

(67) （韓国）今〈＋から〉，私の部屋を紹介しましょう。

(68) （不中）今〈＋から〉，寒くなると，熱量が需要なので，たくさん食べなくてはいけません。

「今まで」の使い方も誤用が目だった。(69)(70)のように期間を表現するときは「今まで」を表現しないで，始発の時点を基準として「もう5カ月たった」「初めて習ってから10カ月になる」というのが普通だろう。

(69) （中国）今まで〈0〉もう5カ月から6カ月ぐらいです。

(70) （中国）わたしは日本語をはじめてならうからいままで〈0〉じゅうかげつぐらいで

す。

次の例は「今でも」とか「今では」といわなければならない誤用例である。

(71) (韓国) 日本に来て1カ月が終わっているいままでも〈までも→でも〉日常会話すらできなくてとても困っているところである。

(72) (不中) 彼女の明朗な態度と豊かの教養と勤勉な学習態度，今までも〈までも→でも〉，深刻に私の心の底に残こている。

(73) (不中) 今まで〈まで→でも〉そのたこはまだ家においてある。

(74) (中国) 今まで〈まで→では〉先生は教室で話すことが95パーセント以上理解することができます。

「今」を中心とする時間を様々に設定して，表現練習をさせる必要があろう。

3．4．5．≪漢字からの間違い≫

漢字の意味によって引き起こされた誤用は時の副用語にも多い。

(75) (韓国) そして私の主人は何時でも〈いつでも〉「私の方があなたより頭がいいですよ」と話します。

(76) (不中) …毎度〈いつも〉，友達がいっぱいなおもちゃをもっているとき，……。

他にも，「同時に（香港）〈そのころ〉」「いご（中国）〈今後〉」「長間に（不中）〈長い間〉」「毎時を（韓国）〈いつも〉」「ある時（不中）〈時々〉」などがあった。

3．4．6．≪その他≫

(77) は語順，(78) は動詞のテンスとの共起が問題である。

(77) (香港) もう日本語は1年勉強したがたいへんむずかしいから，なかなかじょうずにはなすことはできません。

(78) (中国) 日本に来てからやがて〈動詞・テンス〉半年になりました。

その他，「毎週の土曜日（不中）〈－の〉」「近いごろ（不中）〈近頃〉」といった誤用が見られた。

3．5．発想の不理解からくる誤用（25例）

日本語の発想に関する誤用について，森田1985（注5）は「語義の研究において，意味分類を発想形式の違いとしてとらえ，語義が表現面に及ぼす特徴や，他語との共起・非共起の関係，語彙の選択制限等について従来の辞書の記述を超えた、もっときめ細かな調査・研究が必要であろう。」と指摘している。

副用語についても，どのような発想のもとに使われるのか，十分記述されていないために，留学生が誤りを犯してしまう例はすでに3．2．漢字の意味に誘発された誤用，3．3．数量，程度，

比較の誤用，および3．4．時の誤用においても指摘したが，この他にも発想に関する誤用は多数あった。それをここで取り上げる。語がどのような発想のもとに使われるのかを記述していく上で，誤用例は示唆に富むものである。

3．5．1．≪動詞のムードと呼応する陳述副詞≫

「きっと」「確か」「是非」「たぶん」「やはり」「できれば」など，いわゆる陳述副詞は発話者の気持ちを表しているために，文末の動詞のムードに共起制約があるが，これを正しく理解していないための誤用が次の例である。

(79)　(香港) わざわざここに来てきっと〈必ず〉多くの品物を買わなければならない。

(80)　(中国) 私は，これから，きっと〈必ず〉一生けんめいに日本語を勉強します。

(81)　(マレーシア) 法務の社員は必ず〈必ずしも〉マレー人ではありません。

(82)　(不中) 私たちが毎日見たのテレビ，新聞，雑誌，と毎日通った商店街，駅デパートなどに確か〈＋に〉広告というものが入りこんでいる。

(83)　(マレーシア) ．．．看護婦の態度がぜひ〈動詞・ムード〉よく変える。

(84)　(マレーシア) それで，是非〈動詞・ムード〉日本へ留学しに行くを考えた。

(85)　(　”　) できれば〈動詞・ムード〉，私が一生懸命改革するはずだ。

(86)　(フランス) ところで一生け命筑波大学で1年半で言語学，形式名詞のことを勉強してからたぶん〈動詞・ムード〉言語学者になるかという希望があります。

(87)　(香港) 私は夜遅くまで勉強します。幸いに，体がまだやはり〈0〉強いです。

陳述副詞を留学生に教えるときには文末との呼応を具体的に示して注意を喚起せねばならないことは言うまでもない。

3．5．2．≪情態修飾の副用語≫

呼応のある陳述副詞に述語動詞のムードとの共起制約（注6）があるのは当然とみなせるし，日本語の指導においても教師はそれを指摘して注意する。しかし，叙述成分を修飾する情態の副用語でもそれぞれの意義に応じて，動詞に共起制約があることはつい見過ごしていないだろうか。一般の情態副詞にも共起制約のあることは宮島1983（注7）に詳しく，以下のような観点から論じている。

1．テンス

2．ムード

a．非意志的な動詞にかかるもの

b．コントロールできない現象

c．積極的にとることのできない状態

d．偶然性，必然性

e．テンス・アスペクトがらみのもの

また，注釈，評価の副詞にまで広げて，話し手の主観か，登場人物の主観か，客観的属性かという観点も指摘している。共起制約を明示した意義記述がなくては以下のような誤用は防げないと考えられる。

(88)（香港）時間がないから，やむをえず〈どうしても〉彼に電話をかけることができない。

(89)（香港）もうすぐ試験があるので，今から夢中で〈一生懸命〉勉強しようと思います。

(90)（マレーシア）このようにして，こらから速く〈急いで〉日本の学校をさがして，種種手続きをしたあとで，やっと今年の4月2日に日本へ行った。

(91)（不中）…私たちの将来を考えて，苦しく〈一生懸命〉がんばりましょう。

(92)（韓国）ある日，家は火事があって，火事現場からもっとも幼いこどもを救って来たのに自分自信は不幸に〈＋も〉焼かれていた。

(93)（香港）今，訓読みを廃止したら国民は新しく〈あらたに〉適応しなければならない。

(94)（不中）ハイロン・キヤイラという人は目もみえないし，話もはきり〈動詞〉ではありません。

(95)（マレーシア）そして，新しい医療方法を使う，看護婦の態度がぜひ良く〈動詞〉変える。

(96)（香港）日本では日本語学より国語学が広まって〈広く・動詞〉使う。

(97)（中国）（専門の試験がある。）わたしは，日本語を習うといっしょに，一生懸命勉強するつもりです。

(92) のような誤用は谷部1986（注8）で取り上げられている。(94) の「はっきり」は「である」とは共起しない。「はっきり話せません。」と言うつもりなのであろう。(95) は，「良くする」とはいうが，「良く変える」とは言わないだろう。(97) はなぜ落ち着かないのだろうか。この場合おそらく「AとBを一緒に」の意味の場合「Aと一緒にBをVする」という文型なら良いが，Bを省略して，「Aと一緒にVする」はおかしいのではないだろうか。いずれもその発想をよく理解していないための誤用と言えよう。

以上のほかには，「いよいよ（台湾）〈ますます〉」「だんだん涼しい（台湾）〈動詞〉」「ばらばらに残っていない。（台湾）〈否定〉」「急に（台湾）〈急いで〉」「急速に（不中）〈早急に〉」「成績も上手になる（中国）〈よく〉」「何にもまして（香港）〈ともかく〉」「それなりに（香港）〈そのぶん〉」などがあった。

その他，単に覚え間違いとおもわれる誤用として，「こちらそちら（台湾）〈あちこち〉」「どうやっても（マレーシア）〈どうしても〉」「とくしゅに，とくしゅてきに（香港）〈固有に？〉」などがあった。

3．6．文法機能的誤用（52例）

ここでは，助詞の「に」「で」「と」「を」の誤用と，時間的順序や評価の順位を表す序列副詞（注９）の誤用を文法機能に関する誤用として取り上げる。

3．6．1≪序列副詞≫

序列副詞は時間や評価の順序を示す副詞で，文章レベルで使われる接続詞的な場合，文中の特定の要素を取り立てる場合，時それ自体の序列を述べる場合などがある。それが機能している領域が文によって，様々であることから文法機能的誤用とした。

「第一に，第○に」「一番目に，○番目に」「次に」のように「ーーに」とすべき「に」が落ちている例としては，次にあげるようなものがあった。

(98)（香港）第一〈＋に〉，訓は日本人自分のつくる読み方である。

(99)（韓国）二番目〈＋に〉，十分に寝ます。三番目〈＋に〉，十分な栄養を補充します。

(100)（不中）第三は〈は→に〉，休み時運動場でスポーツをやったほうがいいと思います。

「まず」「最初に」「先に」「はじめに」「最後に」のような序列を表す副詞には誤用が多い。「に」「は」「０（零記号）」の間違い(101)（102）のほかに，物事を列挙するときの順序を表す「第一に」と「最初に」の取り違え(103)，発話者の気分的な「まず」と客観的に順序を示す「先に」との取り違え(104)，文要素を取り立てる「はじめに」と動詞の起こり方の様態を示す「初めて」との取り違え(105)（106）などが見られる。

(101)（香港）まずは〈ーは〉鈴木孝夫の「二本だて」とおりに．．．．日常語と専門語は連合できる。

(102)（マレーシア）私ははじめに〈に→は〉日本ごはぜんぜんわかりませんでした。

(103)（ナイジェリア）最初に〈第一に〉国の農業人口が60％以上である。

(104)（中国）先に〈まず〉郵便局で手紙を送りました。

(105)（中国）にほんごをよくわがったら，にほんのふうぞくや日本人をはじめに〈に→て〉わかるはずだ。

(106)（中国）はじめて〈ーて〉にほんじんのはなしはぜんぜんわからなかった。

他に，「はじめに（中国）〈まず〉」「さいご（インドネシア）〈＋に〉」などの誤用があった。

「特別に」と「特に」の取り違えの誤用も目だった。前者が様態を修飾するのに対して，後者は取り立ての働きをするものだ。以下の誤用例は「特に」に置き換えられるべきものである。

(107)（中国）自分で習うのために聞くのことは特別に〈特に〉なかなかできません。

(108)（不中）特別に〈特に〉子供の頃，いろいろなことが思い出せます，おもしろい物があるかと思えば，悲しい物もあります。

(109)（中国）日本語を勉強するとき，特別に〈特に〉文法は一番難しいです。

3．6．2≪ーーに≫

「に」を落とした誤用例としては，「ほんと（韓国），ほんとう（韓国）〈＋に〉」，「ひさしぶり（香港）〈＋に〉」，逆に余分な「に」を付けた誤用例は「とかくに（香港）〈ーに〉」，「そのままに（不中）〈ーに〉」などがあった。

(110)（香港）とかくに〈ーに〉成功よりも失敗がずっと多い。

(111)（台湾）工商時代のげんざい，ひとびとはまいにちきんちょうに〈に→して〉すごすます。

(112)（香港）先日，ひさしぶり〈＋に〉学校に会いました。

(113)（不中）（汗にぬれた服は着替えなければならない。）なぜならそのままに〈ーに〉きてかぜがかかりやすいからです。

「ほかに」の誤用も4例あった。

(114)（韓国）私のはほかに〈ーに〉の部屋より小さくて，6畳しかありません。

(115)（マレーシア）人民はほかに〈ーに〉の種族の文化が尊重してください。

(116)（中国）ほかは〈は→に〉アメリカじんやタイじんなどがいます。

(117)（中国）ほかに〈それに／また〉にほんのこくりつだいがくにはいりたいですから，いまいっしょうけんめいににほんごのべんきょうをしています。

3．6．3．≪で→に≫

「に」と「で」の取り違えによるあやまりは次のようなものであった。

(118)（中国）せんせいがたはいっしょうけんめいで〈で→に〉おしえています。

(119)（韓国）日本人と．．．．比較してみると韓国人の方が，やはり平均的で〈で→に〉劣っていると思います。

(120)（マレーシア）けれどもお金がもったら，その上で〈で→に〉夏休みが暇があったら，北海道へ旅行に行きたいと思います。

他に，「無事で（台湾）〈で→に〉」「時間的で（韓国）〈で→に〉」などがあった。

3．6．4．≪で→を≫

これは「ーーところを」の誤用である。

(121)（台湾）お忙しいところで〈で→を〉，失礼ですが，もし，聞き続けたくなら，あとで，もう一度貸してあります。

3．6．5．≪ーーと≫

「と」に関する誤用例は次のとおりである。

(122)（香港）日本語はテレビ型の語言と言う何故そうと〈ーと/ そのように〉評している

か。

(123) (香港) 洗濯やら掃除やらで，きのう一日中ばたばた〈＋と〉忙しかったです。

3．6．6．≪活用≫

文法の初歩を習っていれば，「便利な」や「親切な」は名詞と結合することを知っているはずで，(124) (125) のような動詞に結合する使い方をしないだろう。初歩的なミスなのか，それとも何か難しさがあるのか，考えなければならない。

(124) (韓国) ワープロとタイプライターの一番大きな違いはワープロの方がとってま便利な使うということです。

(125) (不) エイ先生は私に理論と実戦が一緒に親切な〈な→に〉教えてくれました。

3．7．文型にからむ誤用（12例）

連体修飾するか，文修飾するか，また，並列な文にするか，文修飾するか，といった文型の設定に関わる誤りが見られる。(126) は「むずかしい」の様態を連用修飾すべきところを，「同じ」と「むずかしい」を並列に接続している。(127) 以下はすべて，副用語で表現すべきところを連体修飾して名詞句を作っている。すなわち（1）の方が日本語らしいのに，（2）で表現している誤用である。理屈では（1）でも（2）でも意味が通る場合があり，これらの誤用例から，日本語学習者にとって文型の選択が難しいのがわかる。

（1）副用語＋［名詞＋V］（Vは用言）

（2）［形容詞＋名詞］＋V

(126) (香港) このことは標準英語の普及の同一化と同じようで〈で→に〉むずかしいである。

(127) (台湾) 台湾は日本と同じような〈な→に〉資源不足の国なのです。

(128) (台湾) あなたは最近の〈の→0〉勉強と論文を書くことがいかがですか。

(129) (アメリカ) ところが弁護士になってから特別な〈な→に〉やりたいことがありません。

(130) (中国) わたしはいっしょうけんめいの〈の→に／0〉べんきょうしています。

(131) (中国) わたしはじゅうばんきょうしつのがくせいでした。ほかの〈の→に〉がくせいがじゅうはちにんいました。

(132) (中国) 中国では乗合バスの中で本当の〈の→に〉つまらないことで，或いは席を取るためでけんかを越したことが時々あります。

(133) (香港) のびのびの〈の→と〉すきな勉強することというのは私の一番の楽しみです。

(134) (不) むちゅうな〈な→で〉仕事を続けました。

(135) (スペイン) 女の人は早い〈早く〉ご結婚します。

(136) (香港) 歴史という点から見ると，江戸時代に国学を積極的な〈な→に〉提唱だった。

4．まとめ

誤用例をみていると，単なる覚え間違いとか，初歩的文法ミスと考えられるものも多い。本稿の分類(1)の発音からの誤用，(2)に見られる漢字からの自己流創作の誤用や，(4)の時表現の中にはそのようなものが多い。しかし，(3)程度，量の表現，(5)発想の不理解からくる誤用，(6)文法機能の理解不十分に起因する誤用は日本人の側でまだ十分な意義記述をしていないためと思われるものも多い。副詞の意味の弁別素性のようなものを掘り起こしていかなければならない。(7)の文型がらみのものは，単語レベルでは解決しない。文のどの部分が先に結合するか，名詞句を連体修飾するか，それとも，述部を連用修飾するか，各人の母語の干渉もあって，難しいのではないだろうか。

本稿は収集した副用語の誤用文242例を分類することで，その誤りの傾向を概観したものである。個々の誤用については誤用を指摘するのにとどまり，その分析にまで深く立ち入ることはできなかった。今後，個々の分析を進めることを課題としたい。

注

(1) 文部省特別推進研究 (1) 60060001 『日本語の普遍性と特殊性に関する理論的及び実証的研究』(代表　井上和子)

(2) 森田良行　1977　『基礎日本語1』，角川書店

(3) 原田登美　1982　「否定との関係による副詞の4分類」『国語学』128 に，副詞と否定の関係についての詳しい論評がある。

(4) 野田尚史　1984　「副詞の語順」『日本語教育』52で，副詞の語順を扱っている。

(5) 森田良行　1985　『誤用文の分析と研究』明治書院

(6) 副詞の呼応については次の文献を参照した。

小林幸江　1980　「推量の表現及びそれと呼応する副詞について」『日本語学校論集』7，東京外国語大学付属日本語学校

小矢野哲夫　1983　「副詞の呼応」『副用語の研究』渡辺実 (編) 明治書院

(7) 宮島達夫　1983　「情態副詞と陳述」『副用語の研究』前掲

(8) 谷部弘子　1986　「話し手の評価を担う形容詞」『日本語学』11月号，明治書院で，このような評価を表す副用語について詳しく論じている。

(9) 小林典子　1987　「序列副詞」『国語学』151で，序列副詞について論じている。

付表：

【収集された副用語の誤用例一覧】

（1）発音からの誤用

・また〈まだ〉
・ほとんぼ〈ほとんど〉
・やっはり，やぱり〈やはり，やっぱり〉
・たいへ〈たいへん〉
・ほんどに〈ほんとうに〉
・いっしょれんめい〈一生懸命〉
・とての〈とても〉
・たんたん〈だんだん〉
・まった〈もっと〉
・このころ〈このごろ〉
・ずうと〈ずっと〉
・もちろう〈もちろん〉
・次いて〈次いで〉
・ちょうと〈ちょうど〉
・なかな〈なかなか〉
・どきとき，ときとき〈ときどき〉

（2）漢字の意味に誘発された誤用

・何気なく〈なんとなく，偶然，いつのまにか〉
・一概には〈概して〉
・事実上〈実際〉
・寝中に〈就寝中に〉
・高速的に〈急速に〉
・深刻に〈深く〉
・専念に〈専念して，一生懸命に〉
・快速に〈急速に〉
・近況〈最近〉

（3）数量・程度・比較の誤用

・二つが〈－が〉
・ふたつも〈どちらも〉
・みんな〈＋で〉
・いっぱいな〈－な〉
・多く〈動詞〉
・多分〈かなり，大部分〉
・大大〈大変〉
・かなり〈動詞〉
・少なくなく〈少なからず〉
・ちょっと〈しばらく〉
・よく〈かなり，動詞〉
・もう一度〈また〉
・一番〈表現〉
・あまり〈否定〉
・そんな〈＋に〉
・どのくらい〈いくらか，少し〉
・ふたりひと〈－ひと〉
・全部〈全員，全然〉
・たくさん〈とても，もっと，否定〉
・多い＋名詞〈多く〉
・大体〈かなり〉
・だいぶん〈たいてい，大部分〉
・十分に〈非常に，多く〉
・大変〈動詞〉
・少し〈語順〉
・すこしもっと〈もう少し〉
・うまく〈よく〉
・もっと〈表現〉
・全然〈まったく，否定〉
・どんな〈＋に〉
・そんなに〈大変〉
・いくら〈どんなに〉

・何回に〈に→も〉

（4）時の誤用

・冬に〈－に〉
・その間に〈－に〉
・一生に〈－に〉
・ある日に〈－に〉
・ちょうど〈＋に〉
・５年のあとで〈で→に〉
・今〈＋から〉
・今までも〈までも→でも〉
・毎度〈いつも〉
・以後〈今後〉
・毎時を〈いつも〉
・やがて〈まもなく〉
・一日中に〈－に〉
・この半年の間に〈－に〉
・夏休みの間に〈－に〉
・年々に〈－に〉
・一日中〈＋では〉
・三ヶ月の後で〈で→に〉
・今まで〈表現〉
・何時でも〈いつでも〉
・同時に〈そのころ〉
・長間に〈長い間に〉
・ある時〈時々〉
・その時〈そんな時〉

（5）発想の不理解からくる誤用

・きっと〈必ず〉
・ぜひ〈ムード〉
・たぶん〈ムード〉
・やむをえず〈どうしても〉
・いよいよ〈ますます〉
・だんだん〈動詞〉
・不幸に〈＋も〉
・それなりに〈それだけ〉
・急速に〈早急に〉
・何にもまして〈ともかく〉
・いっしょに〈表現〉
・確か〈＋に〉
・できれば〈ムード〉
・やはり〈表現〉
・夢中で〈一生懸命〉
・速く〈急いで〉
・苦しく〈一生懸命〉
・新しく〈新たに〉
・急に〈急いで〉
・上手に〈よく〉
・はっきり〈動詞〉
・必ず〈必ずしも〉

（6）文法機能的誤用

・第一，〈＋に〉
・第三は〈は→に〉
・はじめに〈に→は〉
・先に〈まず〉
・はじめに〈まず〉
・特別に〈特に〉
・ひさしぶり〈＋に〉
・二番目〈＋に〉
・まずは〈－は〉
・はじめに〈に→て〉
・最初に〈第一に〉
・最後〈＋に〉
・本当に〈＋に〉
・とかくに〈－に〉

・そのままに〈ーに〉
・ほかに〈ーに〉
・ほかに〈それに，また〉
・無事で〈で→に〉
・時間的で〈で→に〉
・お忙しいところで〈で→を〉
・ばたばた〈＋と〉
・こちらそちら〈あちこち〉
・緊張に〈に→して〉
・ほかは〈は→に〉
・一生懸命で〈で→に〉
・平均的で〈で→に〉
・その上で〈ーで〉
・そうと〈ーと〉
・便利な〈な→に〉

（7）文型にからむ誤用

連用修飾すべきところを連体修飾する誤用

例・むちゅうな〈な→で〉仕事を続けました。